

## TOPIC → グローバル人材育成を強力にサポートする 奨学金制度を展開

### 大阪府立大学、留学支援に加えて様々なプログラムを用意

大阪府立大学（大阪府堺市、辻洋学長）は、大学独自の給付型奨学金制度として新たに「グローバルリーダー育成奨学金制度」を今年度新設し、応募者の中から学業、語学力に優れた学生9名をグローバル特待生（Honor Student with World-wide View）に選んだ。6月19日にはその認定証書授与式が行われ、辻学長が激励のメッセージを送った。（表紙に写真を掲載）

大阪府立大学は、グローバル化戦略（2016年3月策定）に基づき、将来グローバルな視点と深い専門性を兼ね備えた国際性豊かなリーダーとして世界に貢献する人材の育成をめざすことを大学運営の柱の一つとして打ち出している。その観点から、大学独自で奨学金制度を設立させることで、グローバルリーダーとなる人材の育成に拍車をかけようというもの。

大阪府立大学では従来から、海外留学の最初のステップである短期プログラムへの参加を促すことを目的に様々な奨励金制度を設けてきた。支援を受けた学生は、留学中「海外留学レポート」を通じて自分たちの体験を報告し、大学 Web サイトで公開するほか、帰国後は積極的に国際交流活動や海外からの留学生サポートなどの活動に参加し、SiMS：博士課程教育リーディングプログラムを始めとする大学院への進学や、グローバル企業への就職など大きな成長をみせ、これまで多くの実績を上げている。

新たな奨学金制度は、海外留学を資金面でサポートするだけでなく、グローバルリーダーとして必要な能力・国際的な感覚を伸ばすための育成プログラム（セミナーなど）を用意し、様々な場面に主体的に参加し、リーダーシップを発揮し、他の学生のロールモデルとしての活躍を求めている。今回、新たなグローバル奨学金制度を加えることで、大阪府立大学のグローバル化に対応した学生育成システムはさらに充実したものになる。

今後、国際交流の大学行事やプレゼンテーション等の実施▼学生 F D 的な活動やプ

ロジェクトの実施▼海外留学や語学研修などの海外渡航プログラムへの参加▼副専攻「DDC フランス語コミュニケーション学」、「グローバルコミュニケーション」などの履修▼学生サポーターとして、国際交流活動に参加▼中百舌鳥キャンパスにある国際交流会館 I-wing なかもずの RS（レジデントサポーター）として国際交流に貢献などを展開。特待生はこれらのイベントや活動、役割等に率先して参加することになる。

### 「日本文化をしっかり身につけ、海外へ発信を」

#### 辻学長が激励のメッセージ

授与式で辻学長は「日本文化をしっかり身につけ、世界に発信してほしい」と要望したうえで、「同時期に選ばれたグローバル特待生同士のチームとしてのつながりを大事にするとともに、広報における学生ロールモデルとして活躍してほしい」とメッセージを送った。吉田敦彦 学生センター長から認定証書を手渡され、説明を受けた学生たちは「自らの海外留学等によって視野を広げ、語学等のコミュニケーション力をさらに高め、プログラムに積極的に参加したい」「リーダーシップを発揮し、大阪府立大学のグローバル化に貢献したい」などと抱負を語った。

### 「将来の夢をかなえるために活動に積極的に参加」

#### 特待生の学生二人がインタビューで抱負



福田望琴さん

特待生の一人、福田望琴さん（地域保健学域 総合リハビリテーション学類2年）にインタビューした。「中学高校から英語が好きで、大学生になったら海外留学で世界のいろいろな人と出会ってみたいと思っていました。府大に入学した時からグローバルリーダー育成奨学金制度ができると聞いていたので募集があったら挑戦したいと思っていました。一年生のときにカンボジアへ短期で行ってますます意欲が募りました」と明かし、「先日、アメリカからの留学生のお世話で、うち一人の留学生と仲良くなりいろいろなことを話しました。社会問題への問題意識が強く、私も日本の文化や歴史、国際的な課題を勉強し、グローバルな視点を身に付けなければいけないと大きな刺激を受けました。将来は作業療法士の国家資格を取り、海外の医療ボランティアで活動するのが夢です」と目を輝かせた。



張 政さん

外国人留学生で特待生に選ばれた張 政さん（現代システム科学域 環境システム学類2年、中国籍）にも話を聞いた。「日本を留学先に選んだのは中国語と同じ漢字文化の日本語に興味があり、日本文化との共通性や違いなどを研究したいと思ったからです」と留学の動機を話す。奨学金制度に応募したことについて、「直接的には今年の夏休みにベトナムでの海外インターシップに行きたいと思っていたので、奨学金制度を活用します。ゆくゆくは、ネパールで子どもたちに教える教育ボランティア活動にも参加してみたい。中国からの留学生といった立場から日本において国際交流を広げる活動をしたいと考えています」と抱負を話す。

張さんは、中百舌鳥キャンパス内で海外留学生と日本人学生が共同生活を送る施設

(I-wing なかもず) に昨年一年間住み、学生同士や国際交流担当の職員と交流する中で、良い思い出をたくさんつくることができたといい、「食べ物が美味しいし、大阪は親しみやすい人が多いので大好きです」と声を弾ませた。

### 「チームとなって活動し、他の学生のロールモデルとなって」

#### 大塚教授が期待を語る



大学独自の奨学金制度の設立に力を入れ、また特待生の相談役の一人である大塚耕司教授（副学生センター長）は「私たち教職員はできるだけサポートはするが、育成セミナーなど大学が用意するプログラムに参加するという受け身の姿勢ではなく、メンバーが一つのチームでまとまり大阪府立大学のグローバル化を先頭になって引っ張るという意気込みで参画してほしい。斬新な発想でプログラムを主体的に企画・運営したり、アクティブに行動することで、グローバルリーダーとして成長し、他の学生のロールモデルとなって本学のグローバル化に新しい境地を切り開いてほしい」と期待する。

#### <2018年度グローバル特待生（敬称略）>

- ❖ 櫻井 幸志：現代システム科学域マネジメン学類2年
- ❖ 張 政：現代システム科学域環境システム学類2年
- ❖ 多田 あいり：工学域物質化学系学類2年
- ❖ 登倉 大貴：工学域物質化学系学類2年
- ❖ 森岡 りな：工学域物質化学系学類2年
- ❖ 大塚 玄人：工学域機械系学類2年
- ❖ 福田 望琴：(地域保健学域総合リハビリテーション学類2年)
- ❖ 森本 真尋：工学域機械系学類2年
- ❖ 中田 潤：地域保健学域教育福祉学類2年